

令和 6 年度事業計画

令和 6 年度は、仙台フィル創立 50 周年記念の年度を終え、次の 100 年に向けて進む新たなスタートとなる大切な年度として、「進」時代という言葉キーワードとして進んでまいります。これまでの 50 年を大切にしながら、時代の変化を捉え、新たな挑戦をする姿を見せ、ブランド力を高めながらジャンルを超えた多くの聴衆に仙台フィルの魅力を発信してまいりたいと思います。そのために、特別演奏会では「名曲トラベル」(全 4 回)と「エンターテインメント定期」(全 3 回)を新たなシリーズとして開催いたします。

1. 仙台フィルハーモニー管弦楽団を編成し、及び維持すること

(1) 指揮者・楽団員の体制等

令和 6 年度は、就任 2 年目となる常任指揮者の高関健と指揮者の太田弦との連携を深め、この両指揮者にはジャンルを超えた作品の指揮活動も担っていただきます。

また、楽団員については、令和 5 年度に実施したオーディションにより、ヴァイオリン首席奏者 (2nd)、チューバ首席奏者各 1 名を採用する予定のほか、ヴァイオリン奏者、ヴィオラ首席奏者、チェロ奏者、ホルン首席奏者、トロンボーン奏者についてもオーディションを進めてまいります。

2. 交響管弦楽等の演奏を行うこと

(1) 定期演奏会

51 年目を迎える令和 6 年度は、常任指揮者の高関健、指揮者の太田弦を中心に、年代や作曲家の出身国にとらわれないオールマイティなレパートリー展開を行いつつ、話題の指揮者やソリストを招聘し、その中でもピアノヴィルトオーゾとの出会いと題して 3 名の著名なピアニストをお招きし、集客力アップにつなげる一年としてまいりたいと思います。

常任指揮者の高関健は、年間 4 回の定期演奏会に登壇します。まずシーズンオープニングの第 372 回定期演奏会 (令和 6 年 5 月) では、2022 年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて、史上最年少 18 歳で優勝した若き天才イム・ユンチャンとの共演でショパンのピアノ協奏曲第 2 番を、そして生誕 200 年目を迎えるアニバーサリー作曲家のブルックナーの最後の交響曲である第 9 番を披露します。

第 377 回定期演奏会 (令和 6 年 11 月) では、仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門審査委員長を務める堀米ゆず子を迎え、ブルッフのスコットランド幻想曲で共演しつつ、翌年に控えた第 9 回仙台国際音楽コンクールへの機運を高めます。メンデルスゾーンの序曲は作曲者が 21 歳の時の佳作。聴衆から人気

も高いエルガーの「エニグマ」もラインナップします。

第 379 回定期演奏会（令和 7 年 2 月）では、交響詩というジャンルではもっとも有名で人気の高い、スメタナの連作交響詩「我が祖国」をスメタナ生誕 200 年記念として取り上げます。

第 380 回定期演奏会（令和 7 年 3 月）では、2016 年第 6 回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第 4 位に入賞し、その後 2021 年には第 18 回ショパン国際ピアノコンクールで見事優勝（この時の 2 位は反田恭平、4 位は小林愛実）に輝いたブルース・リウを招聘し、ショパンコンクール決勝でも演奏されたショパンのピアノ協奏曲第 1 番を披露します。多くの聴衆が集まると予想されるこの回では、ドヴォルザークの神話に基づく序曲や、滅多に生演奏を聴く機会がないデンマークの作曲家であるニールセンの交響曲 6 番など、目新しい作品にも触れていただきます。

指揮者の太田弦は、年度内 2 回定期演奏会に登壇します。

第 373 回定期演奏会（令和 6 年 6 月）では、バルトークと並び民俗音楽収集に余念のなかったハンガリーの作曲家、コダーイの二つの作品を新たなレパートリーとして取り上げます。ひとつはコダーイが子供時代を過ごした土地であるガランタ地方の舞曲を、もうひとつは自由への願いを込めて作曲された、ハンガリー民謡「くじゃく」をモチーフにした変奏曲です。メインで取り上げるショスタコーヴィチの交響曲 5 番は、スターリン統治時代のソビエトで、体制への反逆者のレッテルを貼られていた作曲者が、名誉回復のために作曲したとされています（諸説あり）。自由と平和を求める作品の中で太田弦が導く「回答」に注目したいと思います。

第 378 回定期演奏会（令和 7 年 1 月）では、太田弦と同じ年齢で宮城県出身のヴァイオリニストである郷古廉との共演です。郷古は近年 NHK 交響楽団のゲストコンサートマスターに就任し令和 6 年 4 月からは第 1 コンサートマスターに就任するなど、その存在感を示しています。その郷古が選んだのが、ハリウッド映画音楽の作曲でも有名なコルンゴルトのヴァイオリン協奏曲。太田はこれに合わせ、シューベルトの傑作「ロザムンデ」序曲と、生誕 150 年の記念の年に当たるイギリスの作曲家ホルストの名作であり、太陽系の星々を題材にした超大作でもある組曲「惑星」を取り上げます。最終曲の海王星ではこのためにオリジナルで編成した女性市民合唱団「コロディア☆プラネタス」と共演します。

（演奏は Banda なので舞台上ではなく舞台袖で歌います。）

客演指揮者としては、幼少期を仙台で過ごし、近年は仙台国際音楽コンクールでもタクトを執る広上淳一が第 374 回定期演奏会（令和 6 年 7 月）に登壇。仙台生まれのピアニストで 2023 年 2 月のベートーヴェン「皇帝」の演奏で聴衆より大きな喝采を浴びた小山実稚恵をソリストに抜擢し、モーツァルトのピアノ協奏曲の中でも人気の高い第 20 番を演奏いただきます。後半には広上が得意とする作曲家、マーラーが 24 歳の時に作曲を始めた歌心あふれる交響曲第 1 番を

プログラミングしました。

宮城フィル時代の元首席客演指揮者（1983年～1988年）で現在日本を代表する巨匠のひとりである小林研一郎は、第375回定期演奏会（令和6年9月）に登壇します。炎のコバケンという異名が最も似合う作品であるモーツァルトの交響曲第40番とチャイコフスキーの交響曲第5番の演奏で、会場はコバケンワールド一色に染まることでしょう。

第376回定期演奏会（令和6年10月）には、リヨン管弦楽団の音楽監督や、ライプツィヒMDR交響楽団など世界の名だたるオーケストラの要職を歴任し、華々しいキャリアを築いているドイツ出身の指揮者、準・メルクルが仙台フィルに初登壇します。取り上げる作品は同じくドイツの天才作曲家、メンデルスゾーンの傑作、「美しいメルジーネの物語」序曲と交響曲第3番と第4番。ドイツ音楽の神髄に迫りたいと思います。

（2）特別演奏会

平成14年（2002年）より継続開催している0歳児からのコンサート「オーケストラと遊んじゃおう」は、4月7日（日）に、コロナ禍前にほぼ近い形で開催いたします。コロナ禍で開演前の楽器体験コーナー「楽器博物館」は昨年まで再開できず、指揮者体験コーナーと楽器展示コーナーを楽しんでいただきましたが、今回は弦楽器の体験コーナーと打楽器の体験コーナーを復活させ、好評である指揮者体験コーナーと、珍しい楽器を見学できる展示コーナーを継続しつつ、0歳児からでも楽しめる工夫をしながらお楽しみいただきます。ただし、感染症対策として管楽器の体験のコーナーは引き続き開催を見送ります。

51年目の仙台フィル新シリーズの一つである「名曲トラベル」が4月10日（水）より日立システムズホール仙台コンサートホールを会場にスタートします。年4回のシリーズで、平日午後2時開演、誰もが知っている大作曲家の名曲ばかりを集め、平日昼間にご来場可能な新たなクラシック音楽ファンを開拓します。このシリーズでは子育て世代の方にもご来場いただけるよう託児サービス（有料 2歳児以上 500円/人）も開始します。第1回目はベートーヴェンにスポットを当て、人気作品である交響曲第6番「田園」と第5番「運命」を常任指揮者高関健の元、演奏します。「名曲トラベル」第2回目は6月26日（水）に開催します。4月よりゲストコンサートマスターに就任する小森谷巧が、指揮者・コンサートマスター・ソロと活躍し、稀代の天才作曲家モーツァルトの名曲の数々をお楽しみいただきます。第3回は12月18日（水）、指揮者に太田弦を迎え、チャイコフスキーの3大バレエ組曲を披露します。4回目は令和7年3月5日（水）に室内楽の形式でシューベルトの珠玉の歌曲とピアノ五重奏曲「鱒」を取り上げます。ソプラノに宮地江奈、テノールには西村悟と、新国立劇場のオペラ公演でも活躍するソリストを招き、仙台フィルの主要メンバーと共

演いたします。

5月からはもうひとつの新シリーズ「エンターテインメント定期」が始まります。この公演は令和6年（2024年）度からの新主催シリーズとして展開するもので、アニメーションなどのエンターテインメント作品の音楽をプログラミングすることに特化し、定期的に行われる演奏会です。㈱バンダイナムコフィルムワークス、㈱バンダイナムコミュージックライブ、㈱バンダイナムコピクチャーズの協力のもと、クラシック音楽のジャンルを超えオーケストラの持つ新たな可能性を伝えるべく、世界的にも評価の高い日本のアニメーションを中心としたジャンルの「音楽」にスポットを当て、仙台から世界へと発信します。各アニメーションなどの音楽のすばらしさを生演奏にて感じていただくことを目的としています。

第1回目は5月4日（土）、指揮者に仙台フィル初登壇となる柴田真郁を迎え、平成18年（2006年）10月から平成20年（2008年）9月まで放送された人気アニメ、『コードギアス』シリーズを取り上げます。8月10日（土）開催の第2回目は、指揮者に仙台フィル指揮者の太田弦を迎え、こちらも有名なアニメ作品である『機動戦士ガンダム』シリーズより『機動戦士Zガンダム』、『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』両作品の交響組曲（作曲：三枝成彰）を取り上げます。令和7年3月20日（木・祝）開催の第3回目は令和元年（2019年）・令和4年（2022年）に東京で開催され大好評を博した「アイカツ！シリーズ」のオーケストラコンサート「オケカツ！」を取り上げ、このシリーズを東京で開催された時と同じ指揮者の水戸博之氏が担当します。なお、エンターテインメント定期公演は3回とも市民文化事業団との共催で仙台銀行ホール・イズミティ21のリニューアルオープン公演という位置づけとなります。

例年の開催してきた特別演奏会としては、8月3日（土）には、昨年大好評で満席の公演となったサマーフェスティバルの第2弾、「仙台フィルハーモニー with アキラさんスペシャルコンサート Vol 2」に宮川彬良をお招きし継続開催します。昨年同様5歳以上入場可とし、多くの親子連れの皆様に夏休みの素敵な音楽体験の場としてご来場いただければと思います。

8月25日（日）開催の「マイタウンコンサート in 岩沼」は、指揮者に坂入健司郎を迎え、岩沼市出身・在住のソプラノ歌手である小野綾子を抜擢し、彼女がレパートリーとするバロック時代や古典派の作品の中から、モーツァルトとヘンデルの作品3曲を演奏します。イタリア・ミラノで研鑽を積み、令和4年度宮城県芸術選奨新人賞を受賞、いま波に乗る小野の歌声は、聴きごたえ抜群です。後半は、前半演奏する声楽作品の「祈り」の音楽に関連付け、美しいコーラルを含むブラームスの交響曲第1番を演奏します。ベートーヴェンを意識したこと

から、慎重に長い年月をかけて作曲された作品であるこの交響曲は、オーケストラが奏でる音の厚みや、強靱な主題のエネルギーにあふれ、聞きごたえのある作品です。

年末恒例の「第九」特別演奏会は、指揮者の太田弦が仙台フィル第九特別演奏会に初登壇となります。太田が信頼する実力派の声楽家4名、秦茂子 (Sop)、山下裕賀 (MzSop)、樋口達哉 (Ten)、黒田祐貴 (Bar) を起用し歓喜の歌をお届けします。コロナ禍が過ぎ、日常生活が戻る中で、昨年よりも多くの市民に参加していただきながら合唱団を編成します。

「名曲コレクション・ニューイヤーコンサート 2025」は、令和4年(2022年)の同公演でも指揮を担当し人気を博した田中祐子を迎え、ソリストには福島県出身で令和5年(2023年)9月にイタリアで開催された由緒あるコンクール「ブゾーニ国際ピアノコンクール」で見事3位入賞を果たした山崎亮汰を抜擢し、故郷への凱旋の意味も込めてベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を披露します。

(3) 依頼公演

令和6年4月には、昨年よりオファーがいただけるようになったJ-POPとの共演「billboard classics」全国ツアー仙台公演として、27日(土)にはゴスペラーズと、29日(月・祝)には玉置浩二氏と共演します。

仙台フィルでは近年他ジャンルとの共演も大きな目標としており、J-POPとの共演のほか、7月27日(土)には、ゲーム音楽を都内で展開しており、サントリーホールやミュージア川崎を満席にするほどの集客力を誇るMUSICエンジン主催の「OMORI コンサート in 仙台」公演への出演依頼を受けることができました。日立システムズホール仙台コンサートホールで昼夜2回公演の予定です。

6月2日(日)には、オーボエ首席奏者、西沢澄博の出身地である弘前にて20年ぶりとなる本格的なシンフォニックコンサートの依頼を受け、指揮者には八戸出身の松井慶太を据え、名曲の数々と共にマルチェッロのオーボエ協奏曲を西沢のソロで演奏し、後半はチャイコフスキーの大作、交響曲第5番を演奏します。

6月6日(木)には、「アイリスオーヤマクラシックスペシャル 2024」がサントリーホールにて予定されています。今回も桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを迎え、ヴェロが得意とするアメリカ音楽からガーシュウインの名作「パリのアメリカ人」を取り上げるとともに、サントリーホールのオルガンの音色をお聞きいただくコープランドのオルガン交響曲を、オルガン奏者の梅干野安未(ほやのあみ)との共演で演奏します。更に、仙台フィル50周年記念定期演奏会の最後に取り上げたコープランドの交響曲第3番を披露します。

8月18日(日)には、道南うみ街信用金庫から100周年記念事業としてオー

ケストラコンサートのご依頼をいただきました。北海道北斗市にて開催いたします。

9月10日（火）にはオーケストラ・キャラバン公演（予定）として、第375回定期演奏会と同じ演目・指揮者（小林研一郎）をそのままに、盛岡市民文化ホールマリオスにて演奏会を開催いたします。

毎年10月恒例の仙台クラシックフェスティバルは、仙台銀行ホール・イズミティ21の改修工事が終了したため、以前のように5公演での開催となります。

10月12日（土）には、2年前より秋田市で開催されている「秋田・潟上国際音楽祭」が第3回目を数えますが、今回も出演依頼をいただきました。秋田アトリオンでの開催予定となっております。

令和6年に開府1300年を迎える多賀城市の記念公演として、新作のオペラ「多賀城創世記（仮称）」を11月4日（月・祝）に演奏予定です。

12月にはコロナ禍を脱し、昨年から再開された岩沼第九演奏会が引き続き開催される予定です。

同じく昨年より再開された七十七スターライトシンフォニーも継続開催の見込みです。

大人のみならず地元中高生も合唱に加わり3年に一度のサイクルで依頼を受けていた一関第九公演は、令和3年、令和4年と延期が続き、令和5年には予定されませんでした。令和6年によりやく再開できる見込みです。

令和7年1月には、年始恒例の藤崎ニューイヤーコンサートで仙台の初春を華やかに飾る予定です。

このほかに七十七ふれあいコンサートについては、年度内に2公演開催していただける方向で開催時期を調整しております。

2月には令和5年にはじめてご依頼いただいた福島県国見町でのコンサートが大変好評だったため、引き続きの演奏依頼をいただいております。

また、第9回仙台国際音楽コンクールプレ企画として、前回の優勝者をソリストに起用した演奏会の依頼も受けております。

その他栗原文化会館からは、仙台フィルが新シリーズとして自主公演で開催する「エンターテインメント定期」や「名曲トラベル」に類似した演目での公演依頼相談を受けているところです。

（4）室内楽

「音楽の力による復興センター・東北」との連携による被災地域各地での室内楽公演を継続するとともに、地域のニーズに合わせて各種室内楽活動を引き続き行ってまいります。

（5）その他

被災地のオーケストラとして、「音楽の力による復興センター・東北」と連携

し音楽による復興支援活動に引き続き務めてまいります。

また、令和3年度より取り組みを始めたボランティア活動「ほうもんコンサート」もコロナ禍では開催できないことが続き、昨年度も開催が難しい結果となりましたが、令和6年度は開催に向けて積極的に働きかけてまいります。

3. 青少年等の音楽鑑賞及び演奏等に関し指導を行い、その普及を図ること

(1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの児童・生徒が一堂に会する「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は開催見送りとなりましたが、令和6年度はコロナ禍以前と同様に、日立システムズホール仙台コンサートホールで仙台市立小学校の5年生と中学校1年生を対象とした従来通りの開催となる予定です。

(2) 舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）

令和6年度も文化庁の「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）」が採択となり、南東北・北関東の小中学校の訪問を予定しています。各地の子供たちにオーケストラの素晴らしさを届けます。

(3) その他依頼公演

例年開催されている「エンジョイ！クラシック」は11月に開催を予定しており、例年のように高校生の管弦楽部との共演を行うため、演奏指導にもあたる予定です。

4. その他目的達成のために必要な事業

(1) 演奏に必要な調査、研究

日本オーケストラ連盟加盟団体との各種情報交換に加え、文化庁、日本芸術文化振興基金へのヒアリングなどにより、当団の成長・発展と健全な運営に役立てまいります。

(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和5年度から、従来の編成で市民合唱団を編成できるようになったものの、コロナ禍以前のような規模までは達しておりません。合唱団人数を回復させ、常盤木学園高等学校や宮城学院女子大学とも連携し、以前と同様の市民合唱団を編成いたします。

(3) 仙台ジュニアオーケストラ

令和6年度は、スーパーヴァイザー高関健の元、欠員の補充に力を入れつつ、子供たちが音楽を演奏することによって心身ともに健康であることを目標に、

活動します。引き続き仙台フィルの団員が講師となり、各楽器のパート練習にあたり、副指揮者が弦楽器、管楽器、打楽器に分かれての分奏の指導にあたります。10月の定期演奏会の指揮者には大井剛史が、3月のスプリングコンサートには仙台フィル常任指揮者でジュニアオーケストラスパーヴァイザーの高関健がそれぞれタクトを執ります。今後は夏季合宿も含めコロナ禍前のように従来通りの活動を展開できるよう取り組む予定です。

(4) その他

多くのリスナーからご好評をいただいているエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和6年度も番組内でリスナーに仙台フィルの演奏をじっくり聴いていただく形で継続されます。加えてTBC東北放送においても「エンジョイ！クラシック」の継続が決定しております。また、これらの放送媒体のほか、仙台フィルのホームページ、X（旧 Twitter）、フェイスブック、インスタグラムなど SNS による情報拡散も積極的に行ってまいります。令和4年度からはじまった LINE 公式アカウントでの広報活動は順調にお友達登録が増えており、現在 3000 名に達するところまで増え続けております。更に仙台フィル YouTube チャンネルを活用し、すべての定期演奏会について指揮者、ソリスト、または仙台フィル楽団員による事前プロモーション動画を配信しており好評を得ていることから、継続して取り組みます。昨年度に引き続き、常任指揮者高関健、指揮者太田弦の定期演奏会の模様を中心にアーカイブで動画配信していくなど、更なる広報活動を展開してまいります。

(以上 敬称省略)